

III 調査結果

1 単純集計

主な調査項目の単純集計結果を以下に示す。なお、本報告書におけるデータの集計および統計分析には IBM SPSS Statistics ver.28 を使用した。

1-1 基本的属性

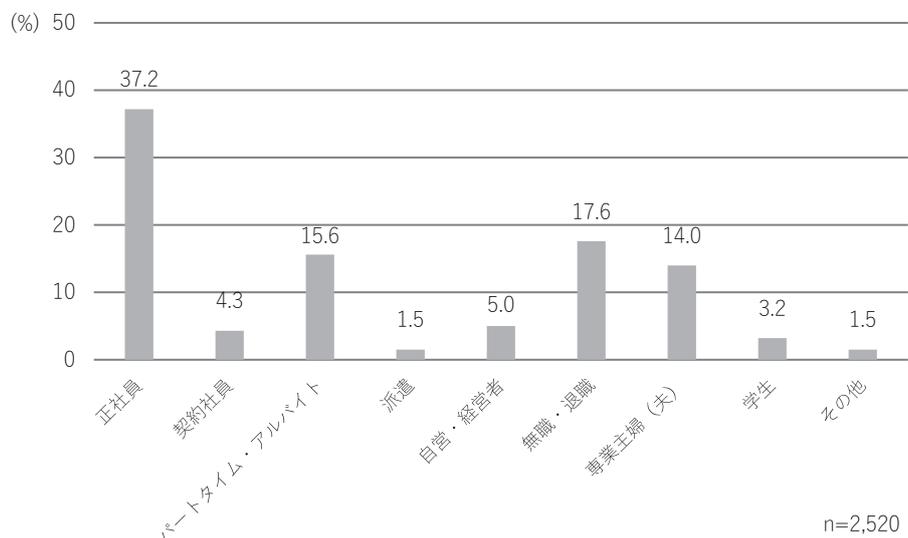
本調査では対象条件を均等割付としたため、男女および年代については各カテゴリーの割合が等分となる。ただし、年代についてはモニターの性質上、10代（18-19歳）のサンプル数が少ないため、20代に統合して集計した（表III-1-1）。

表III-1-1 度数分布表（性・年代）

		n	%
性	男性	1260	50.0
	女性	1260	50.0
	合計	2520	100
年代	18-19歳	31	1.2
	20-29歳	389	15.4
	30-39歳	420	16.7
	40-49歳	420	16.7
	50-59歳	420	16.7
	60-69歳	420	16.7
	70歳以上	420	16.7
	合計	2520	100

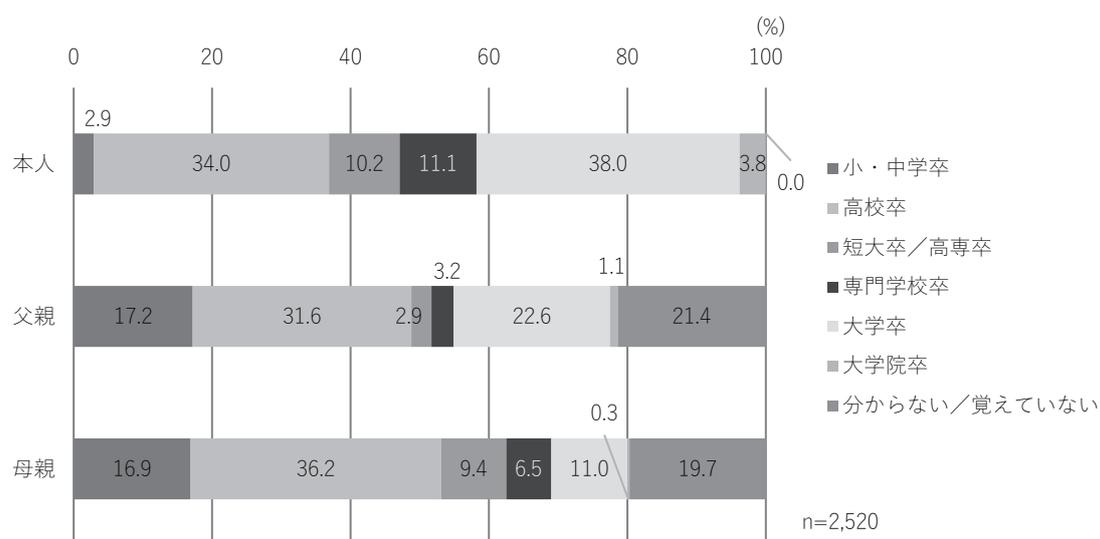
注) 構成比は小数点以下第2位を四捨五入したため、加算値は合計100%とならない場合がある。

就業分類については「正社員」37.2%が最も多く、「無職・退職」17.6%を除くと「パートタイム・アルバイト」15.6%、「専業主婦（夫）」14.0%が続いた（図Ⅲ-1-1）。



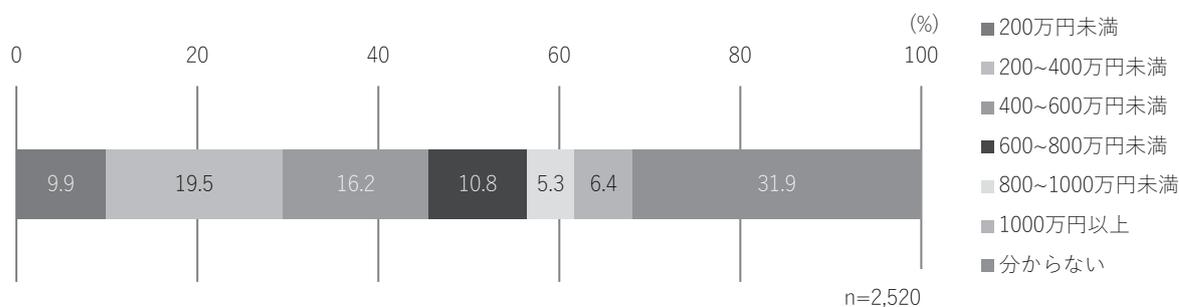
図Ⅲ-1-1 就業分類

学歴については、本人は「大学卒」38.0%、父親/母親は「高校卒」31.6%/36.2%がそれぞれ最も多かった。なお、「大学卒」については父親のほうが多く、「短大卒／高専卒」および「専門学校卒」については母親のほうが多かった（図Ⅲ-1-2）。



図Ⅲ-1-2 学歴（本人・父親・母親）

世帯年収については、「分からない」31.9%が最も多く、「200～400万円未満」19.5%、「400～600万円未満」16.2%と続いた（図Ⅲ-1-3）。なお、「分からない」を除く回答者ベースでは600万円未満が約67%を占めた。



図Ⅲ-1-3 世帯年収

1-2 健康関心度尺度

前述のとおり、本調査では小澤ら[2021]が開発した健康関心度尺度を用いた。同尺度を構成する合計12の下位項目は以下のとおりである。

〈健康への意識：4項目〉

- 1 私は健康への意識が高い方だ
- 2 自分の健康に関する情報に興味がある
- 3 健康状態の変化に気を付けている
- 4 周りの人より私は健康を意識している

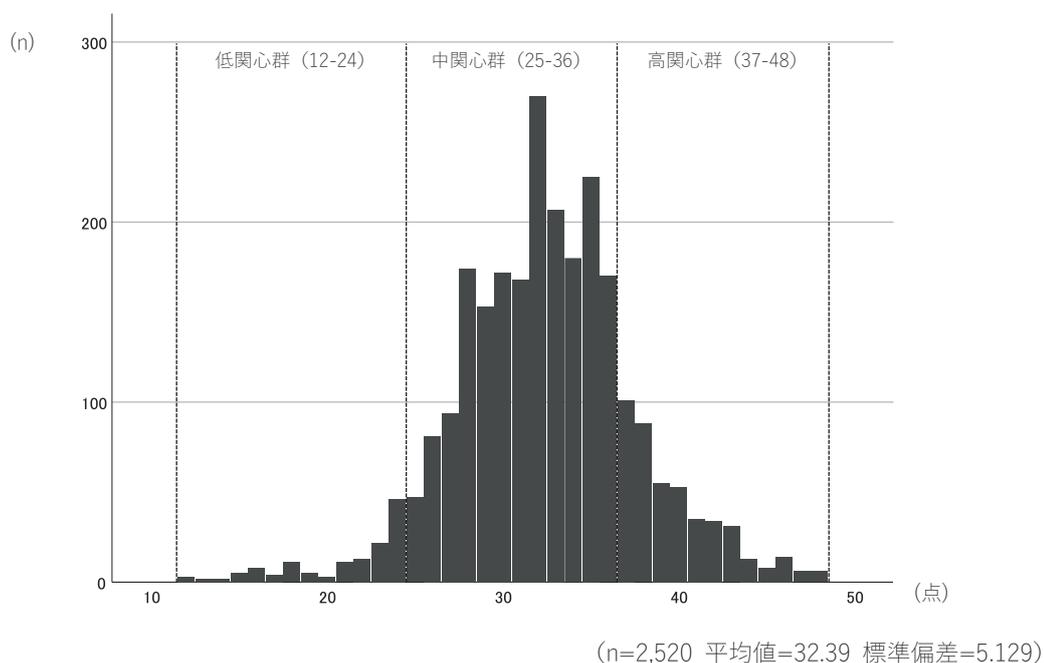
〈健康への意欲：4項目〉

- 5 健康のためにはある程度時間を割くべきだ
- 6 健康のためにはある程度お金をかけてもよい
- 7 健康を第一に考えて暮らしたい
- 8 健康でいるためなら何でもする

〈健康への価値観：4項目〉

- 9 健康よりも遊びや趣味が大切だ
- 10 健康よりも仕事や収入が大切だ
- 11 病気を予防するより、病気になったら治療すればよい
- 12 病気になったときだけ自分の健康が心配だ

以上の12項目の合計得点（range:12-48）を集計した結果を以下に示す（図Ⅲ-1-4）。



図III-1-4 健康関心度尺度（合計得点）のヒストグラム

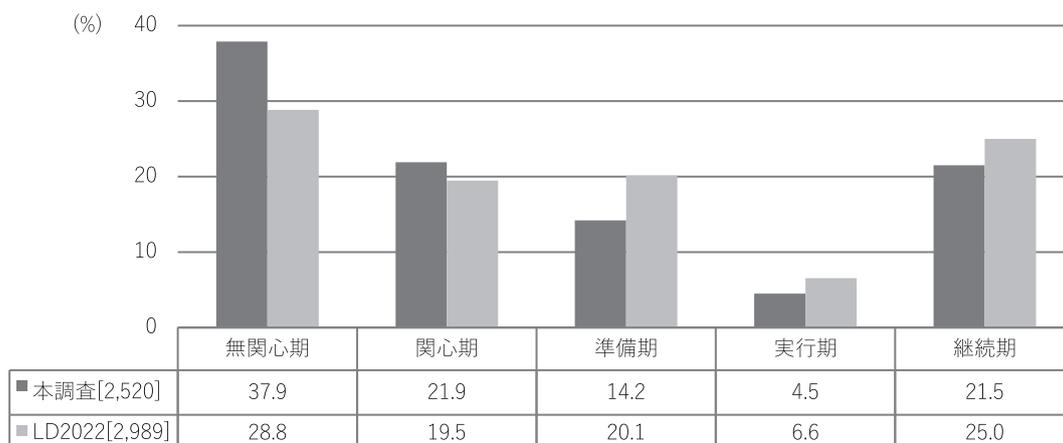
およそ正規分布に従うものの、山が高くやや左に裾を引く分布となった。得点範囲を3区分し、それぞれ低関心群（12-24点）・中関心群（25-36点）・高関心群（37-48点）とすると、それぞれの割合は低関心群 5.4%・中関心群 77.0%・高関心群 17.6%であった。

1-3 「スポーツライフに関する調査」2022 との比較

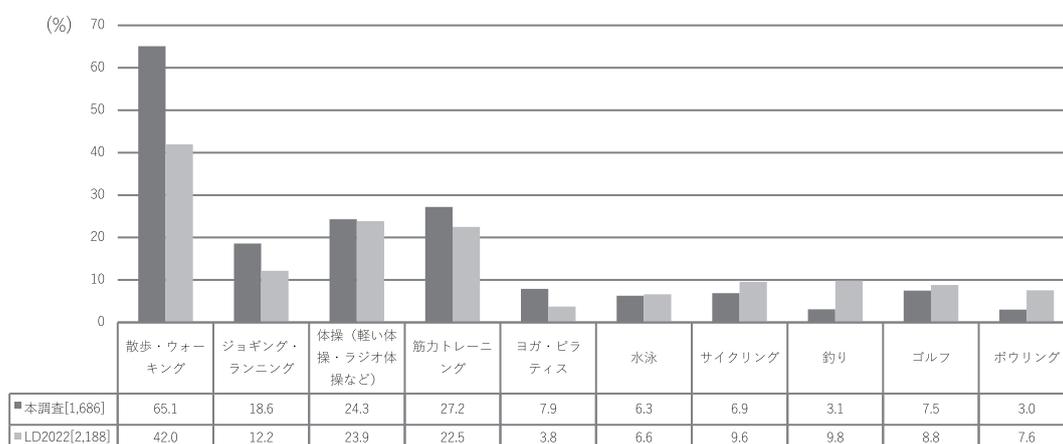
「スポーツライフに関する調査」2022 で実施した一部の項目について、本調査の集計結果と比較した。調査方法の違いについては以下のとおりである（表III-1-2）。訪問留置法による「スポーツライフに関する調査」2022 に対し、本調査は同様の対象条件でインターネット調査を行った。登録モニター（全国 354 万人：2023 年 8 月時点）や回答デバイスおよび謝礼によるインセンティブの違いは考慮すべきであるが、サンプルの得にくい若年層および高齢層をカバーするため性・年代を均等割付で抽出し、サンプルサイズは 2,520 とした。抽出方法の特性上、本調査データの集計値および検定結果の解釈にあたっては、必ずしも代表性を担保するものではない点にも留意が必要である。また以下では、両調査の方法およびデータについて比較したが、あくまでも本調査を相対化させる目的に留まり、「スポーツライフに関する調査」2022 の調査方法およびデータの傾向等への言及を意図するものではない。

表 III-1-2 調査概要

健康関心度とスポーツライフに関する調査		スポーツライフに関する調査 2022 (LD2022)	
調査時期	2023年8月	2022年6~7月	
目標母集団	全国の市町村に居住する満18歳以上の男女		
枠母集団	WEB調査会社(A社)登録モニター	—	
抽出方法	割付(性×年代で12セル)の各セルの条件に合致する者を抽出してランダム配信	地域×都市規模で層化し、各層の人口に合わせて地点を比例配分し、各地点内の性×年代の比率に合わせて抽出(割当法)	
調査方法 (回答デバイス)	インターネット調査 (PC/タブレット:12.5% スマートフォン:87.5%)	訪問留置法(質問票)	
サンプル数	2,520	3,000	

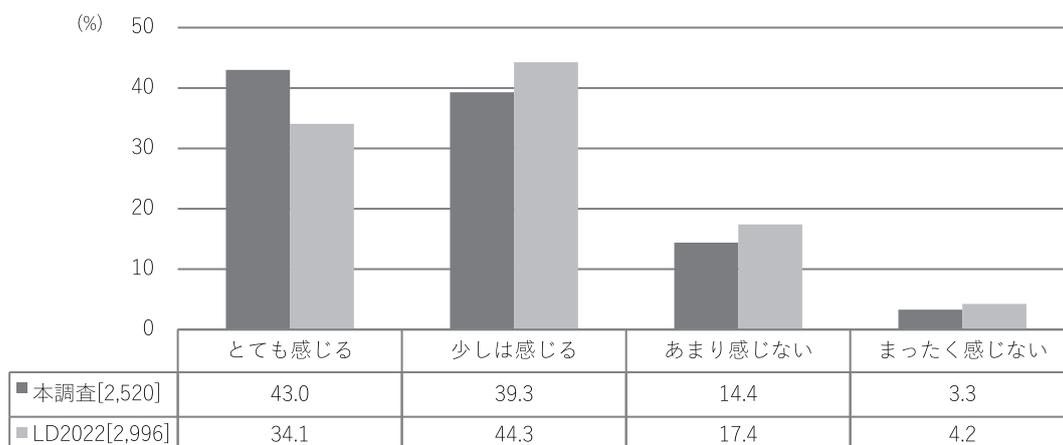


図III-1-5 運動・スポーツ実施状況（行動変容ステージ）

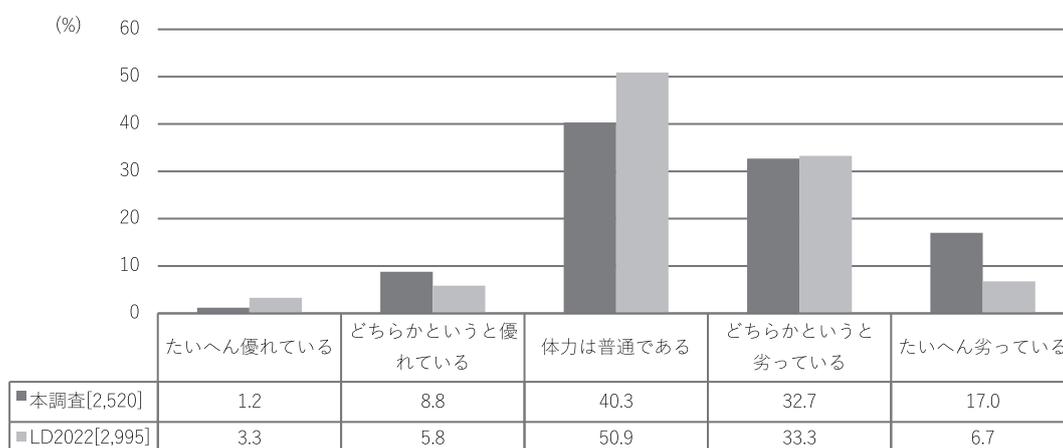


図III-1-6 過去1年間の運動・スポーツ実施種目

運動・スポーツに関する行動面については次の2項目を用いた。運動・スポーツ実施状況（行動変容ステージ）については「ここ1ヶ月間、運動・スポーツを行っていない。また、これから先もするつもりはない。」：無関心期、「ここ1ヶ月間、運動・スポーツを行っていない。しかし、近い将来（6ヶ月以内）に始めようと思っている。」：関心期、「ここ1ヶ月間、運動・スポーツを行っている。しかし、週2回未満である。」：準備期、「ここ1ヶ月間、週2回以上、運動・スポーツを行っている。しかし、始めてから6ヶ月以内である。」：実行期、「ここ1ヶ月間、週2回以上、運動・スポーツを行っている。また、6ヶ月以上継続している。」：継続期、として行動変容ステージ別にそれぞれを示す。比較の結果、最も差が大きかったのは「無関心期」で本調査のほうが9.1ポイント高かった（図III-1-5）。また過去1年間の運動・スポーツ実施種目の比較では、最も差が大きかったのは「散歩・ウォーキング」で本調査のほうが23.1ポイント高かった（図III-1-6）。

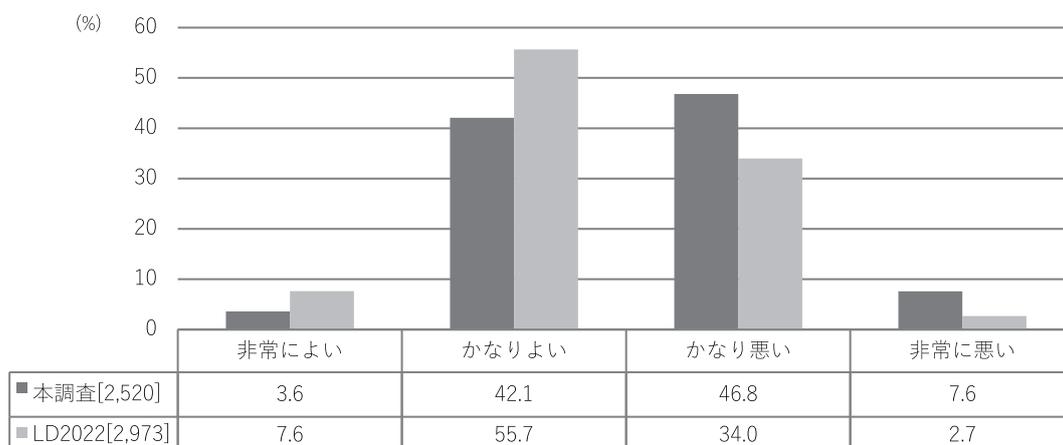


図III-1-7 運動不足感

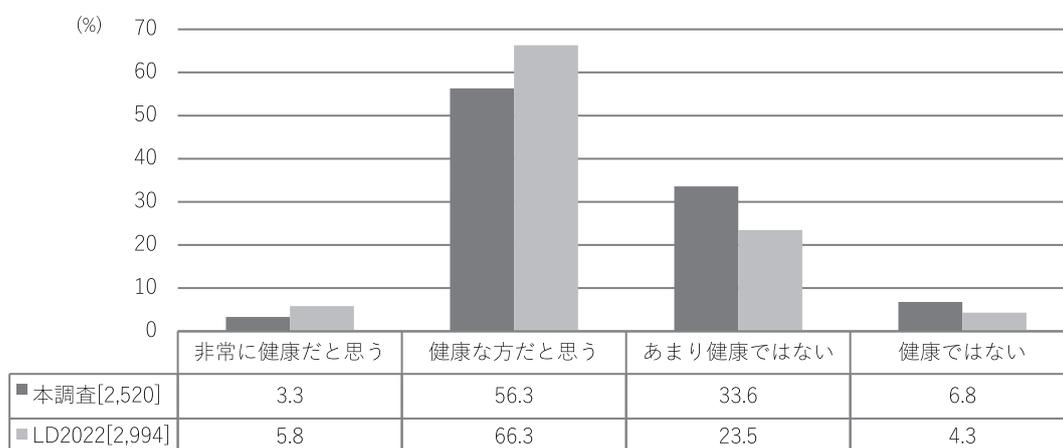


図III-1-8 体力の自己評価

運動・スポーツに関する意識面については次の2項目を用いた。運動不足感の比較では、最も差が大きかったのは「とても感じる」で本調査のほうが8.9ポイント高かった（図III-1-7）。体力の自己評価の比較では、最も差が大きかったのは「体力は普通である」で本調査のほうが10.6ポイント低く、開きがみられた（図III-1-8）。



図Ⅲ-1-9 睡眠の質の自己評価



図Ⅲ-1-10 主観的健康感

他の関連項目については次の 2 項目を用いた。睡眠の質の自己評価の比較では、最も差が大きかったのは「かなりよい」で 13.6 ポイント低く、一方で「かなり悪い」については 12.8 ポイント高く、開きがみられた（図Ⅲ-1-9）。主観的健康感の比較では、「健康な方だと思う」で 10 ポイント低く、「あまり健康ではない」で 10.1 ポイント高かった（図Ⅲ-1-10）。

2 健康関心度と属性および健康習慣の関連

健康関心度尺度の合計得点 (range: 12-48) を用いて属性および健康習慣との関連を分析した (表III-2-1)。本調査では、性、年代、本人学歴、就業状況、世帯年収および運動・スポーツ実施状況、喫煙習慣と健康関心度尺度との間で関連が認められた。基本属性および社会経済的属性においてはすべての変数で有意差がみられたが、健康習慣に関しては飲酒習慣との関連は認められなかった。以下、各変数について小澤ら[2021]の調査結果と比較しながら整理する。

性別では、男性よりも女性のほうが健康関心度は高く、小澤らの調査と同様の傾向がみられた。年代別では概ね年代に応じて高まるが、小澤らの調査では含まれていない 18-29 歳を含むデータから分析した結果、30 代の健康関心度は 20 代以下よりも低かった。本人学歴による差は小澤らの調査では認められていないが、同じく大卒以上と大卒未満で比較したところ、本調査では大卒以上のほうが健康関心度は高かった。就業状況別では、小澤らの研究を参照しつつ、学生等を含む 7 カテゴリーで分析を行った。このうち健康関心度の平均値が最も高かったのは「専業主婦 (夫)」 33.88 ± 4.82 、最も低かったのは「学生」 31.49 ± 5.13 、勤労者の中では「正社員」 31.67 ± 4.88 であった。世帯年収別 (「分からない」を除く) で最も高かった層は「800 万円以上」 33.36 ± 4.76 、最も低かったのは「400 万円以上 800 万円未満」 32.34 ± 4.89 であった。健康習慣については、一部に「スポーツライフに関する調査」2022 で使用されている変数を用いたため単純に比較できないが、概ね小澤らの調査と同様の傾向がみられた。運動習慣は行動変容ステージが高いほど、喫煙習慣はなしのほうが健康関心度は高かった。なお、同表では割愛したが、食習慣についても 3 項目 (規則性・バランス・間食の有無) すべてで関連が認められた。

以上の結果から、健康関心度との関連について設定した仮説の検証結果は以下のとおりであった。

仮説 1 : 男性よりも女性のほうが、健康関心度が高い	→○
仮説 2 : 年齢が高いほうが、健康関心度が高い	→○
仮説 3 : 本人の学歴が高いほうが、健康関心度が高い	→○
仮説 4 : 世帯年収が高いほうが、健康関心度が高い	→△
仮説 5 : 定期的な運動が習慣化しているほうが、健康関心度が高い	→○
仮説 6 : 飲酒習慣がない人のほうが、健康関心度が高い	→×
仮説 7 : 喫煙習慣がない人のほうが、健康関心度が高い	→○

本報告書で設定した仮説は概ね支持された。仮説 4 については高所得層で健康関心度が高いものの、中所得層では低所得層よりも健康関心度が低かったため、順相関として完全に支持されたとは言えない。仮説 6 については先行研究でも関連は認められておらず、本調査においても健康関心度に対する飲酒習慣の影響はみられなかった。

表III-2-1 健康関心度尺度（合計得点）と属性および健康習慣との関連

		<i>n</i>	(%)	<i>M</i>	(<i>SD</i>)	<i>p</i>		
性	男性	1,260	(50.0)	32.04	(5.29)	<0.001		
	女性	1,260	(50.0)	32.73	(4.94)			
年代	18-19 歳	31	(1.2)	31.26	(3.77)	<0.001		
	20-29 歳	389	(15.4)	31.10	(5.43)			
	30-39 歳	420	(16.7)	31.04	(4.82)			
	40-49 歳	420	(16.7)	31.52	(5.15)			
	50-59 歳	420	(16.7)	32.04	(4.81)			
	60-69 歳	420	(16.7)	33.74	(4.80)			
	70 歳以上	420	(16.7)	34.86	(4.65)			
本人学歴	大卒以上	1,053	(41.8)	32.74	(5.09)	<0.001		
	大卒未満	1,467	(58.2)	32.13	(5.14)			
就業状況	正社員	938	(37.2)	31.67	(4.88)	<0.001		
	非正規社員	540	(21.4)	32.12	(5.24)			
	自営・経営者	126	(5.0)	32.44	(5.53)			
	専業主婦（夫）	354	(14.0)	33.88	(4.82)			
	無職・退職	444	(17.6)	33.11	(5.30)			
	学生	80	(3.2)	31.49	(5.13)			
	その他	38	(1.5)	33.16	(5.18)			
世帯年収	400 万円未満	741	(29.4)	32.43	(5.37)	<0.001		
	400 万円以上 800 万円未満	682	(27.1)	32.34	(4.89)			
	800 万円以上	294	(11.7)	33.36	(4.76)			
	分からない	803	(31.9)	32.03	(5.19)			
運動・スポーツ実施状況 (行動変容ステージ)	ここ 1 ヶ月間、運動・スポーツを行っていない。 また、これから先もするつもりはない。（無関心期）	956	(37.9)	30.58	(5.10)	<0.001		
	ここ 1 ヶ月間、運動・スポーツを行っていない。しかし、 近い将来（6 ヶ月以内）に始めようと思っている。（関心期）	551	(21.9)	32.92	(4.71)			
	ここ 1 ヶ月間、運動・スポーツを行っている。 しかし、週 2 回未満である。（準備期）	357	(14.2)	32.96	(4.65)			
	ここ 1 ヶ月間、週 2 回以上、運動・スポーツを行っている。 しかし、始めてから 6 ヶ月以内である。（実行期）	114	(4.5)	33.17	(4.15)			
	ここ 1 ヶ月間、週 2 回以上、運動・スポーツを行っている。 また、6 ヶ月以上継続している。（継続期）	542	(21.5)	34.47	(5.05)			
	飲酒習慣	あり	1,158	(46.0)	32.34		(5.24)	0.697
	なし（やめた・ほとんど飲まない）	1,362	(54.0)	32.42	(5.04)			
喫煙習慣	あり	1,774	(70.4)	32.68	(5.12)	<0.001		
	なし（吸わない）	746	(29.6)	31.69	(5.08)			

注) 性、飲酒習慣、喫煙習慣は t 検定、年代は一元配置分散分析、本人学歴、就業状況、世帯年収、運動・スポーツ実施状況は性別・年齢を共変量とした共分散分析による p 値

また、健康関心度尺度における 12 の下位項目を因子ごとに合計した因子得点 (range: 4-16) についても属性との関連を分析した (表Ⅲ-2-2)。性別では、健康への意欲と健康への価値観で有意差が認められ、ともに女性のほうが男性よりも高かった。一方で、健康への意識について性差は認められなかった。年代、本人学歴、就業状況および世帯年収別では 3 因子いずれも有意差が認められた。年代別で平均値が最も低かったのは、健康への意識が「30-39 歳」 10.00 ± 2.45 、健康への意欲が「50-59 歳」 10.25 ± 2.15 、健康への価値観が「20-29 歳」 9.95 ± 2.34 と、因子ごとに異なる傾向がみられた。本人学歴別では健康への意識と意欲については大卒以上のほうが大卒未満より高かったが、健康への価値観については大卒未満のほうが大卒以上よりも高かった。就業状況別で平均値が最も低かったのは、健康への意識が「正社員」 10.49 ± 2.42 、健康への意欲が「非正規社員」 10.43 ± 2.17 、健康への価値観が「学生」 10.1 ± 2.50 と、年代と同じく因子ごとに異なる傾向がみられた。世帯年収別 (「分からないを除く) で平均値が最も低かったのは、健康への意識が「400 万円以上 800 万円未満」 10.72 ± 2.28 、健康への意欲が「400 万円未満」 10.52 ± 2.16 、健康への価値観が「400 万円以上 800 万円未満」 10.88 ± 2.15 であり、3 因子のうち健康への意欲については、世帯年収が下がるほど因子得点の平均値も低かった。

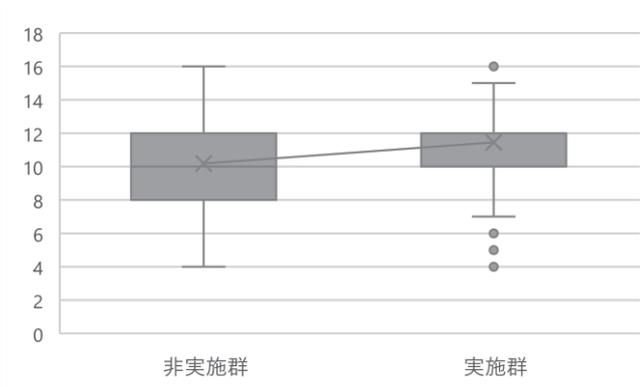
続いて、運動実施状況によって因子得点の差がみられるかを検証するため、行動変容ステージの「無関心期」と「関心期」を合わせて『非実施群』、「準備期」・「実行期」・「継続期」を合わせて『実施群』とした。3 つの因子得点ごとに両群の平均値に差があるかを検証するため、非実施群=1/実施群=0 とするダミー変数を用いて Welch 検定を行った。なお、差の大きさを示す効果量の測定には Cohen の d を使用した。

各因子得点の分布を群ごとに箱ひげ図で示した (図Ⅲ-2-1~Ⅲ-2-3)。非実施群と実施群の各得点データを下から小さい順に並べた分布を 25% ずつに 4 区分し、中央の箱がデータの真ん中 50% の分布を表している。箱内の×印が平均値、横線が中央値をそれぞれ示している。また、上の横線 (ひげ) が最大値、下の横線が最小値である。この結果から、健康への意識得点および意欲得点は、ともに運動実施群よりも運動非実施群のほうが低く、ばらつきが大きいことがわかる。一方で価値観得点は、運動実施群と非実施群の間で有意差はみられなかった。したがって、運動を行っている人たちは行っていない人たちに比べて健康への意識および意欲は高かったが、価値観には違いがみられなかった。

表III-2-2 健康関心度尺度（因子得点）と属性との関連

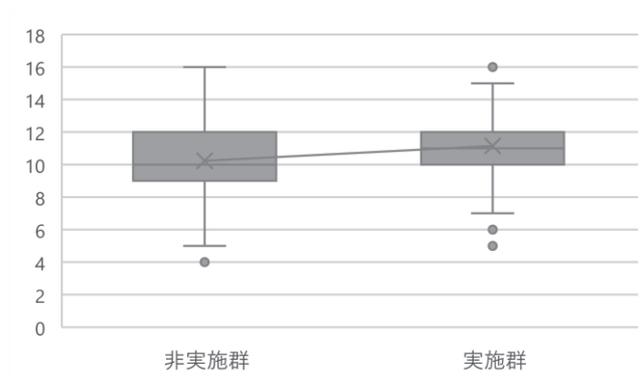
	第1因子（健康への意識）			第2因子（健康への意欲）			第3因子（健康への価値観）					
	n	(%)	M (SD)	ρ	n	(%)	M (SD)	ρ	n	(%)	M (SD)	ρ
性	1,260	(50.0)	10.63 (2.50)	0.223	1,260	(50.0)	10.52 (2.34)	0.046	1,260	(50.0)	10.89 (2.18)	<0.001
男性	1,260	(50.0)	10.75 (2.37)		1,260	(50.0)	10.69 (2.08)		1,260	(50.0)	11.29 (2.16)	
女性	31	(1.2)	10.32 (2.23)	<0.001	31	(1.2)	10.65 (2.03)	<0.001	31	(1.2)	10.29 (1.92)	<0.001
年代	389	(15.4)	10.40 (2.70)		389	(15.4)	10.75 (2.58)		389	(15.4)	9.95 (2.34)	
18-19 歳	420	(16.7)	10.00 (2.45)		420	(16.7)	10.34 (2.23)		420	(16.7)	10.69 (2.16)	
20-29 歳	420	(16.7)	10.25 (2.47)		420	(16.7)	10.28 (2.27)		420	(16.7)	10.99 (2.18)	
30-39 歳	420	(16.7)	10.59 (2.32)		420	(16.7)	10.25 (2.15)		420	(16.7)	11.20 (1.94)	
40-49 歳	420	(16.7)	11.23 (2.18)		420	(16.7)	10.84 (1.98)		420	(16.7)	11.67 (1.95)	
50-59 歳	420	(16.7)	11.67 (2.08)		420	(16.7)	11.16 (1.92)		420	(16.7)	12.04 (1.89)	
60-69 歳	1,053	(41.8)	10.89 (2.40)	<0.001	1,053	(41.8)	10.84 (2.17)	<0.001	1,053	(41.8)	11.01 (2.22)	<0.001
70 歳以上	1,467	(58.2)	10.55 (2.45)		1,467	(58.2)	10.43 (2.23)		1,467	(58.2)	11.15 (2.15)	
本人学歴	938	(37.2)	10.49 (2.42)	<0.001	938	(37.2)	10.55 (2.25)	<0.001	938	(37.2)	10.63 (2.14)	<0.001
就業状況	540	(21.4)	10.54 (2.46)		540	(21.4)	10.43 (2.17)		540	(21.4)	11.14 (2.21)	
大卒以上	126	(5.0)	10.8 (2.59)		126	(5.0)	10.59 (2.21)		126	(5.0)	11.06 (2.26)	
非正規社員	354	(14.0)	11.12 (2.29)		354	(14.0)	10.95 (2.04)		354	(14.0)	11.81 (1.99)	
自営・経営者	444	(17.6)	10.91 (2.47)		444	(17.6)	10.61 (2.30)		444	(17.6)	11.59 (2.02)	
専業主婦（夫）	80	(3.2)	10.56 (2.47)		80	(3.2)	10.82 (2.39)		80	(3.2)	10.1 (2.50)	
無職・退職	38	(1.5)	11.11 (2.15)		38	(1.5)	10.63 (1.98)		38	(1.5)	11.42 (1.97)	
学生	741	(29.4)	10.81 (2.51)	<0.001	741	(29.4)	10.52 (2.16)	<0.001	741	(29.4)	11.1 (2.24)	<0.001
その他	682	(27.1)	10.72 (2.28)		682	(27.1)	10.74 (2.16)		682	(27.1)	10.88 (2.15)	
世帯年収	294	(11.7)	11.18 (2.25)		294	(11.7)	11.1 (2.0)		294	(11.7)	11.08 (2.15)	
400万円未満	803	(31.9)	10.37 (2.52)		803	(31.9)	10.38 (2.35)		803	(31.9)	11.27 (2.15)	
400万円以上800万円未満												
800万円以上												
分からない												

注) 性はt検定、年代は一元配置分散分析、本人学歴、就業状況、世帯年収は性別・年齢を共変量とした共分散分析によるp値



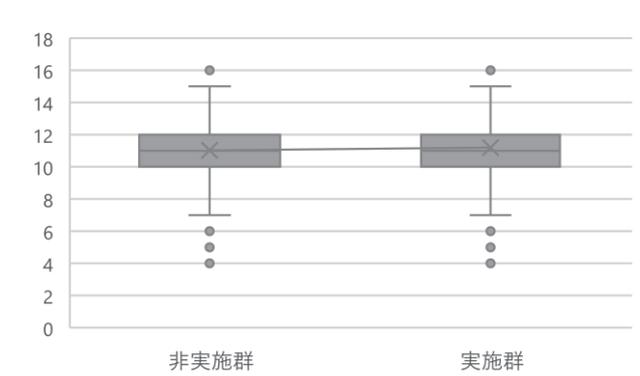
$t(2520)=13.469, p<0.001, d=0.539$

図 III-2-1 健康意識得点の平均値の差 [運動非実施ダミー]



$t(2520)=10.505, p<0.001, d=0.421$

図 III-2-2 健康意欲得点の平均値の差 [運動非実施ダミー]



$t(2520)=1.947, p=0.052$

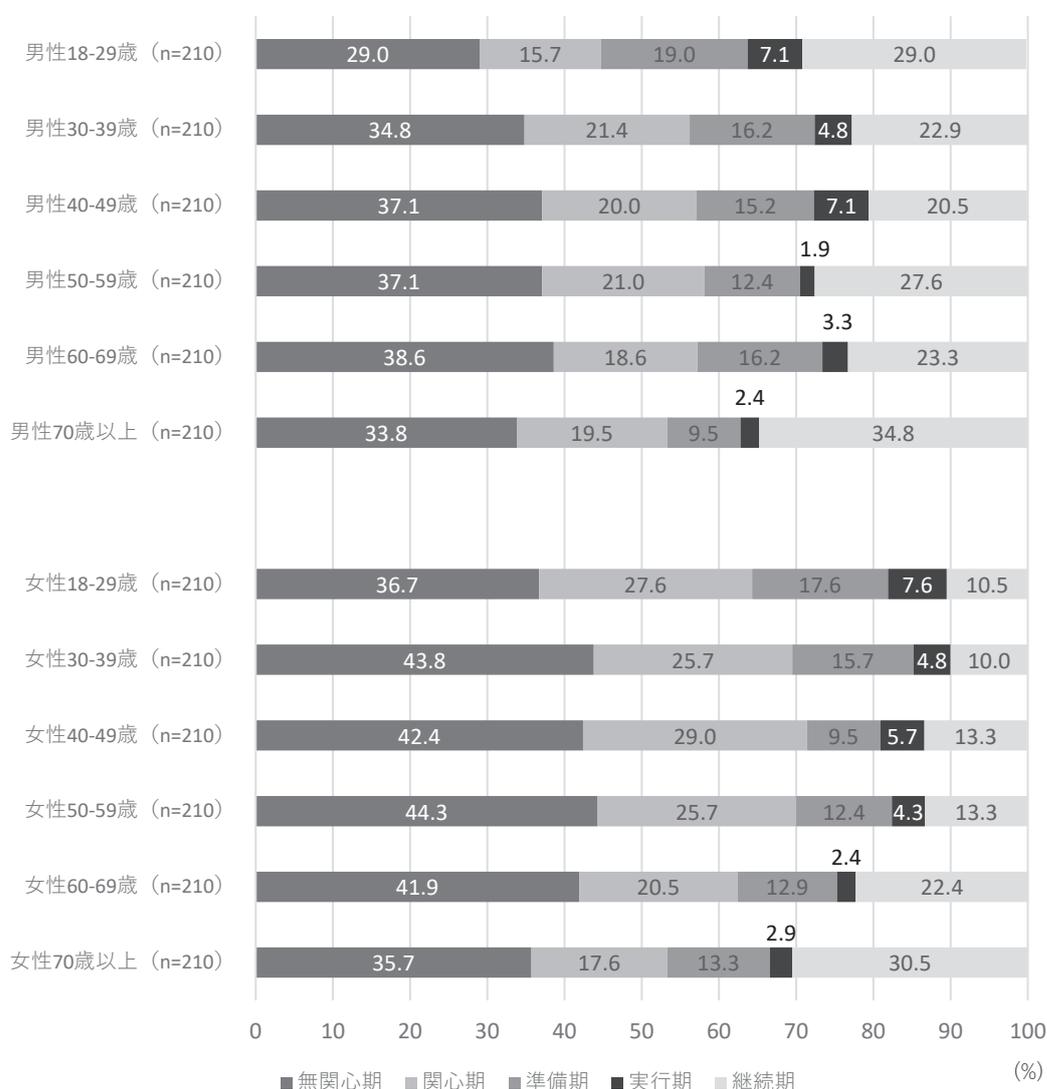
図 III-2-3 健康価値観得点の平均値の差 [運動非実施ダミー]

3 運動・スポーツ項目との関連および下位項目の分析

3-1 運動・スポーツ項目

運動・スポーツ実施状況について性・年代別に集計し、カイ 2 乗検定を行った（図 III-3-1）。関連の大きさを示す指標には Cramer の V を用いた。

性・年代と運動・スポーツ実施状況の間には有意差がみられた。男女ともに 70 代以上で「継続期」が多く、男性では 18-29 歳と 50 代も比較的が多い。女性では 50 代以下で「継続期」が少なく、とくに 30 代以下の若年層で少なさが目立った。

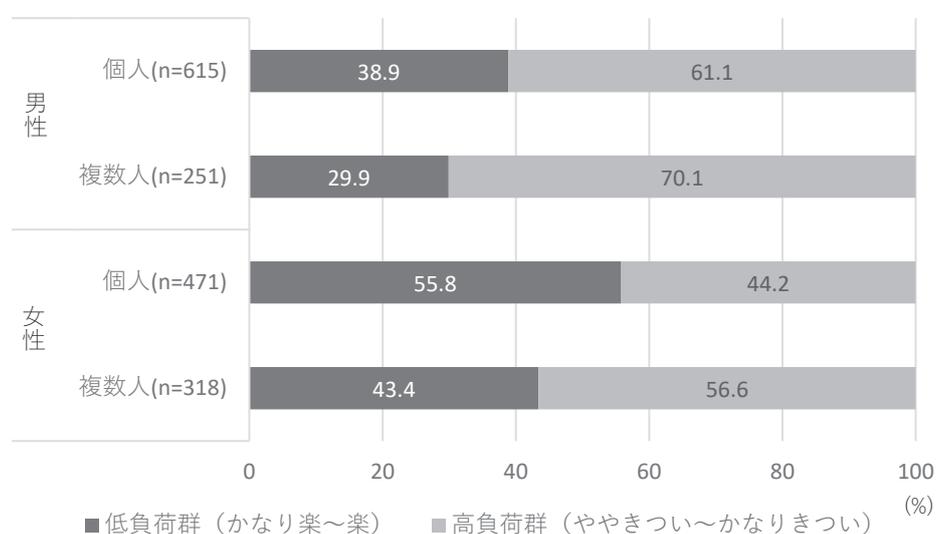


$$\chi^2=139.4, df=44, p<0.001, V=0.118$$

図 III-3-1 運動・スポーツ実施状況（性・年代別）

続いて、運動・スポーツのきつさ（強度）と同伴者の有無との関連について性別に集計し、カイ2乗検定を行った（図III-3-2）。連関の大きさを示す指標には ϕ （ファイ）係数を用いた。

運動・スポーツのきつさは「かなり楽である」「楽である」を合計した『低負荷群』、「ややきつい」「きつい」「かなりきつい」を合計した『高負荷群』の2区分とした。また、同伴者は人数に応じて「ひとりで」を『個人』、「ひとりで」および「その他」以外の選択肢を合計した『複数人』の2区分とした。検定の結果、男女ともに有意差がみられた。男性では個人・複数人ともに高負荷群が多いが、複数人のほうがより高負荷群が多かった。一方で女性では同伴者の有無によって傾向が異なり、個人は低負荷群、複数人は高負荷群が多かった。



男性: $\chi^2=6.2$, $df=1$, $p<0.05$, $\phi=0.085$

女性: $\chi^2=11.8$, $df=1$, $p<0.001$, $\phi=0.122$

図III-3-2 運動・スポーツのきつさと同伴者の有無との関連（性別）

3-2 下位項目のクロス集計

健康関心度尺度における12の下位項目との関連要因について、性別・年代・学歴（本人および親）・世帯年収とのクロス集計を行い、 χ^2 検定の結果をまとめた（表III-3-1）。なお、学歴については「中学・高校卒」「短大・高専卒」「大学・大学院卒」の3区分、世帯年収は「分からない」を除く回答者ベースを用いて集計した。

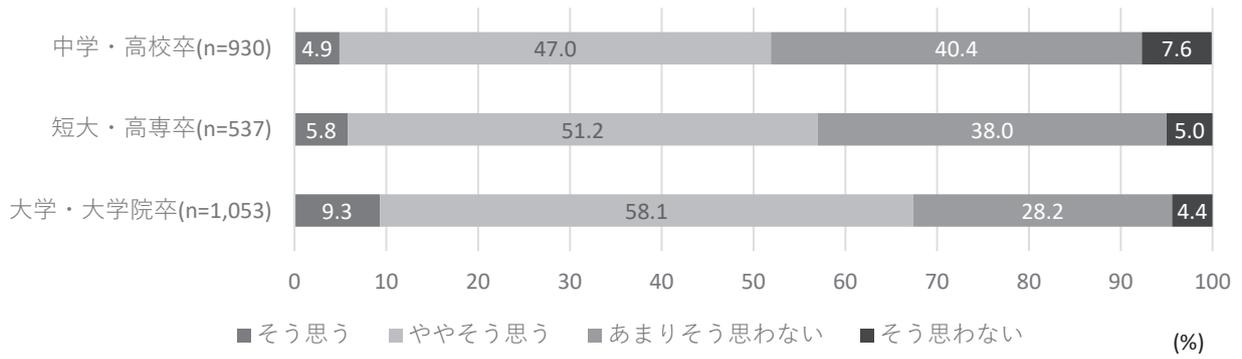
表III-3-1 健康関心度尺度：下位項目と関連要因の χ^2 検定（p値）

健康関心度尺度	性別	年代	本人学歴 (3区分)	母親学歴 (3区分)	父親学歴 (3区分)	世帯年収 (分からない除く)	世帯年収 (2区分)
意識							
私は健康への意識が高い方だ	0.992	<0.001 ***	0.004 **	0.271	0.029 *	0.091	0.219
自分の健康に関する情報に興味がある	0.285	<0.001 ***	0.027 *	0.48	0.081	0.159	0.399
健康状態の変化に気を付けている	0.003 **	<0.001 ***	0.356	0.736	0.18	0.521	0.236
周りの人より私は健康を意識している	0.768	<0.001 ***	0.003 **	0.117	0.033 *	0.091	0.08
意欲							
健康のためにはある程度時間を割くべきだ	0.03 *	<0.001 ***	0.002 **	0.461	0.006 **	0.489	0.692
健康のためにはある程度お金をかけてもよい	0.053	<0.001 ***	<0.001 ***	<0.001 ***	<0.001 ***	<0.001 ***	<0.001 ***
健康を第一に考えて暮らしたい	<0.001 ***	<0.001 ***	0.352	0.668	0.029 *	0.175	0.41
健康でいるためなら何でもする	0.253	<0.001 ***	0.113	0.006 **	0.063	0.566	0.17
価値観							
健康よりも遊びや趣味が大切だ	0.03 *	<0.001 ***	0.03 *	<0.001 ***	<0.001 ***	0.003 **	0.002 **
健康よりも仕事や収入が大切だ	0.038 *	<0.001 ***	0.536	0.006 **	0.024 *	0.003 **	<0.001 ***
病気を予防するより、病気になったら治療すればよい	<0.001 ***	<0.001 ***	0.097	0.001 **	0.002 **	0.593	0.124
病気になったときだけ自分の健康が心配だ	0.008 **	<0.001 ***	0.17	0.002 **	0.006 **	0.215	0.016 *

注 *: $p<0.05$, **: $p<0.01$, ***: $p<0.001$

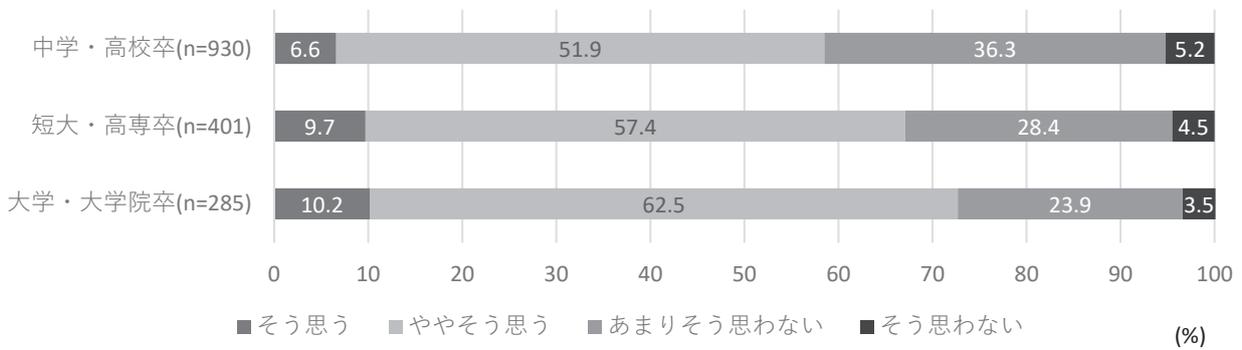
性別では、意識および意欲に比べて価値観との関連が多くみられ、概ね男性よりも女性のほうが健康への関心度は高い傾向にあった。年代別では12項目すべてにおいて有意差がみられ、いずれも年代が上がるほど健康への関心度は高かった。学歴別では、本人学歴は意識、両親の学歴は価値観の項目との関連が多くみられた。世帯年収別ではいずれもコストや収入にかかわる意欲および価値観の項目を中心に関連がみられた。そこで表III-3-1のうち、学歴別および世帯年収別の主なクロス表を以下に示した。連関の大きさを示す指標にはCramerのVを用いた。

まず、意欲に関する「健康のためにはある程度お金をかけてもよい」は本人と両親で共通して学歴が高いほど、また世帯年収が高いほど意欲的な傾向がみられた（図III-3-3～図III-3-6）。一方で、価値観に関する「健康よりも遊びや趣味が大切だ」は600～800万円未満をピークとして世帯年収が上がるほど肯定的な割合が増えるのに対し、800万円以上の層では世帯年収が上がるほど否定的な割合が増える傾向がみられた（図III-3-7）。また、「健康よりも仕事や収入が大切だ」は400～600万円未満までは世帯年収が上がるほど肯定的な割合が増えるが、600万円以上の層では異なる傾向がみられた（図III-3-8）。



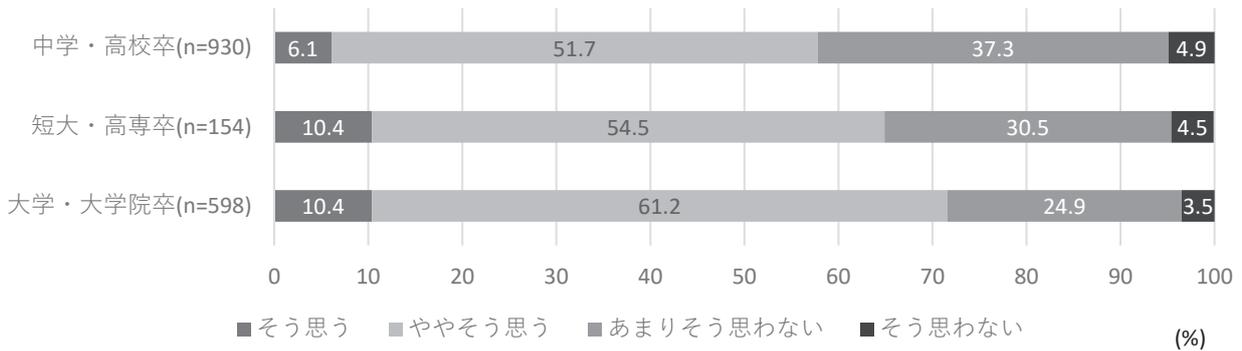
$\chi^2=59.7, df=6, p<0.001, V=0.109$

図 III-3-3 健康のためにはある程度お金をかけてもよい (本人学歴別)



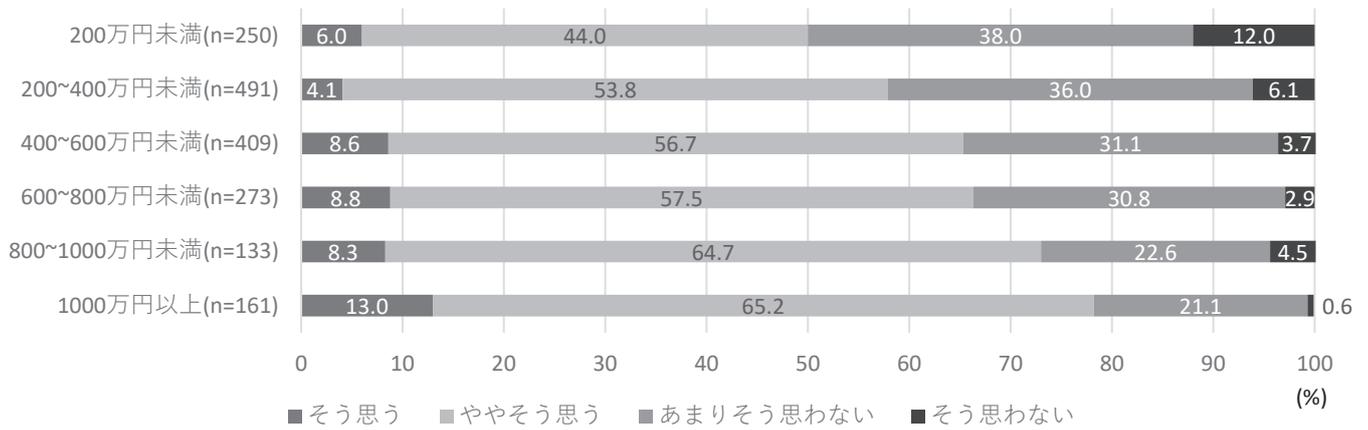
$\chi^2=27.8, df=6, p<0.001, V=0.083$

図 III-3-4 健康のためにはある程度お金をかけてもよい (母親学歴別)



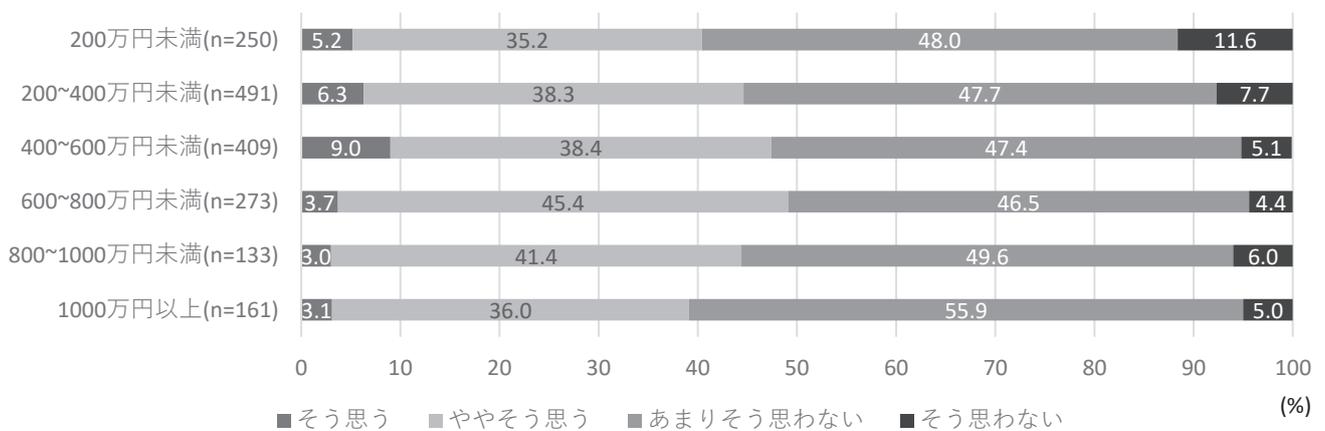
$\chi^2=38.2, df=6, p<0.001, V=0.098$

図 III-3-5 健康のためにはある程度お金をかけてもよい (父親学歴別)



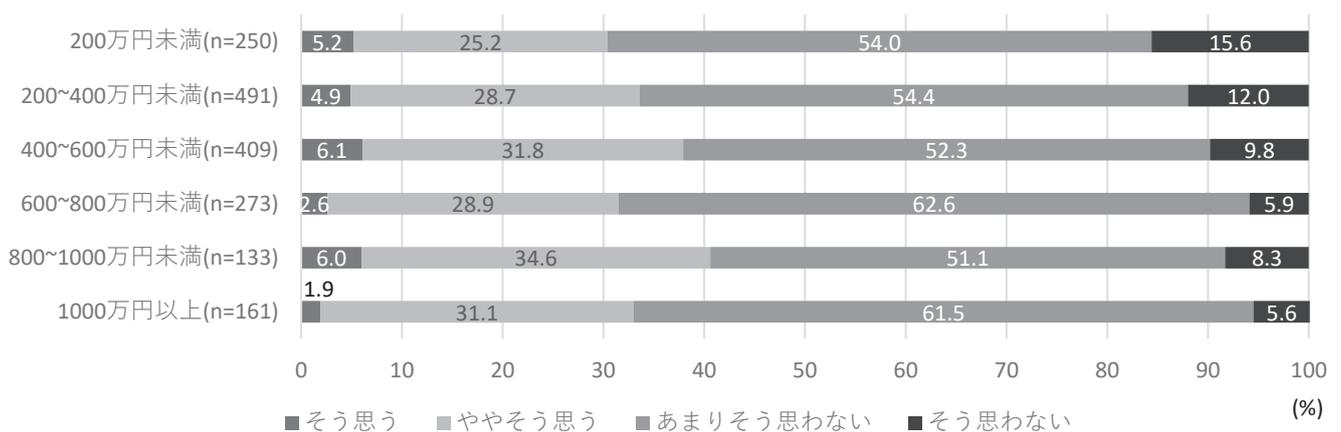
$\chi^2=77.1, df=15, p<0.001, V=0.122$

図III-3-6 健康のためにはある程度お金をかけてもよい（世帯年収別）



$\chi^2=34.5, df=15, p<0.01, V=0.082$

図III-3-7 健康よりも遊びや趣味が大切だ（世帯年収別）



$\chi^2=34.3, df=15, p<0.01, V=0.082$

図III-3-8 健康よりも仕事や収入が大切だ（世帯年収別）